

東	京
四	季

24

東京四季の会 編集

一九八二年四月・第二四号〈東京四季〉

「東京四季」第二十四号

発行「東京四季の会」定価500円
発行日1982・4月 印刷所 博栄社

生と死

田中克己

昭和三年以来の友は死に

昭和六年以来の友は勲三等をもらった。

前者はわたしの詩を読み

後者はわたしの論文を感心している。

「四季」の友はなくなり

—— 神保光太郎は老いた ——

東洋史の友は久しぶりに笑った。

芥川比呂志は片肺だけで生きていたが

詩も作らずに死に

奥さんの旧姓葛巻瑠璃子さんも詩を忘れない。

わたしはいま「四季」と「コギト」という記録と

「中国の死刑」という学術論文とを書いている。

糖尿の気があるらしいが一病息災だ。

「四季」の復刊はわたしの家のをもとにした。

堀さん、朔太郎、達治、薫とみな死に

立原も未発表書翰を二通のこしている。

いいな、いいな、わたしは生きている。

同人

小杉 茂樹	421-05	静岡県相良町波津762-2	05485-2-0100
松崎 仙吉	300	茨城県土浦市天川町5-5-2	0298-22-6022
勝見 方雄	153	東京都目黒区青葉台1-2-9	03-461-7979
阿部 英雄	184	東京都小金井市桜町2-1-42-702	0423-84-0668
金谷 量三	131	東京都墨田区堤通り1-17-25	03-611-4195
鈴木 猛	252	神奈川県藤沢市高倉555-2	0466-44-8037
佐々木 甚一	036	青森県弘前市西茂森2-13-4	0172-36-2358
萩原 康吉	347-01	埼玉県騎西町中ノ目499-1	04807-3-4437
山田 雅彦	192	東京都八王子市暁町2-31-20	0426-25-5006
松丸 俊明	329-03	栃木県小山市鏡955-1	0285-38-1095
高橋 正夫	320	栃木県宇都宮市宝木2-904-3	0286-52-4337
畠中 哲夫	145	東京都大田区田園調布2-17	03-721-0043
諸貫 寛	330	埼玉県大宮市大和町1-847	0486-84-9023
柳川 史子	730	広島市東区牛田本町2-5-7	0822-21-0682
桐原 恵子	483	愛知県江南市藤ヶ丘7-1江南団地201-102(佐々木方)	05875-7-0763
鳥羽 貞子	197	東京都秋川市雨間1874-29	0425-59-5938
神田 寿美子	671-22	姫路市青山1238-10(横山方)	0792-66-3517
遊佐 淑子	023-11	岩手県江刺市男石1-3-25	01973-5-1651
備前 芳子	551	大阪府大正区小林町西一丁目1-10	06-551-6043
紫野 京子	654	神戸市須磨区板宿町1-6-2(武貞方)	078-735-6500
小野 夏江	107	東京都港区南青山4-10-8(野町方)	03-403-5042
滝本 寛子	168	東京都杉並区和泉町2-13-5和泉台マンション305	03-321-1914
山本 みち子	190-12	東京都武蔵村山市中藤4774-99	0425-60-2836

神田 寿美子 詩集 風に乘った少年

檸檬社

この一冊の詩集は、つましくも心あたたまる詩の花束だ。神田さんは、「あとがき」で、彼女の本意を謙虚に述べている。ためらいもあつたが、求めて知るために、書き綴つたのだから……と。作品には、内面にこだまする女の生きざまを、例えばその「鴨」という詩に見るとおり、飛びたつ意志を残して……と、いふふう作者の精神は動いて……

受贈誌

朔	83号
青宋	36号
海燕	二月号
響	21号
季	24号

投稿規定

■読者の投稿を求めます

投稿は「東京四季」の定期購読(二期分四冊)の誌代(含送料)二、八〇〇円を振り込み、定期読者として登録されている方に限ります。

四百字詰原稿用紙に二篇以内とし、誌上掲載作品は編集スタッフが選定します。

原稿には住所・氏名・郵便番号(連絡用電話番号を記入下さればなお結構です)を明記し、左記あて郵送して下さい。原稿は返却致しません。

■編集スタッフ

小杉・勝見・鈴木・鳥羽・山田

■原稿の送り先

〒421-05 静岡県相良町波津七六二二二

小杉 茂樹

■購読料払込み先

〒252 藤沢市高倉五五五の二 鈴木 猛

振替 横浜 一一一九七二三

編集後記

◆今号は、「四季」の同人として活躍されていた田中克己先生と大木実先生から、お作品を頂戴致しました。「東京四季」の仲間にとって、お二人の名前はお馴染みです。また一昨年、現代詩女流賞を受賞なさった、山本沖子さんからも詩を戴きました。有難うございました。

◆星野武彦追悼集としてお届けする本号は、故人の「東京四季」に寄せた情熱に報いるべく、心をこめて編集致しました。ピールと詩を愛し、書くことが生き甲斐だった星野さん。星野さんの好きな(春)の訪れと共に再び訃報が届きました。

三月七日、竹中郁先生が永遠の旅路にたたれました。行年七十七歳でした。

「四季」の同人でもあり、詩集『ポルカ マズルカ』で読売文学賞を受賞なさった竹中先生は、私達のアンソロジーNO Iにも、お作品を寄せて下さっています。また児童詩誌「きりん」を育てられ、子供の詩の指導者としても活躍なさいました。私達にとっては悲しい春となりました。

◆一年間に亘り、発行事務を担当した勝見さんは、経費の見直しや節約に腕を振われ、会計を黒字にされ、諸事万端に力を尽くされました。感謝致します。次回から、原稿の送り先は小杉さんです。阿部さん、山田さんにも事務の分担をしていただくことになりました。よろしく。

(鳥羽)

東	京
四	季

25

東京四季の会 編集

一九八二年第二十五号〈東京四季〉

「東京四季」第二十五号 発行「東京四季の会」定価500円
発行日 1982・8月 印刷所 博栄社

同人

小杉茂樹	421-05	静岡県相良町波津762-2	05485-2-0100
松崎仙吉	300	茨城県土浦市天川町5-5-2	0298-22-6022
勝見方雄	153	東京都目黒区青葉台1-2-9	03-461-7979
阿部英雄	184	東京都小金井市桜町2-1-42-702	0423-84-0668
金谷量三	131	東京都墨田区堤通り1-17-25	03-611-4195
鈴木猛	252	神奈川県藤沢市高倉555-2	0466-44-8037
佐々木甚一	036	青森県弘前市西茂森2-13-4	0172-36-2358
萩原康吉	347-01	埼玉県騎西町中ノ目499-1	04807-3-4437
山田雅彦	192	東京都八王子市曙町2-31-20	0426-25-5006
松丸俊明	329-03	栃木県小山市鏡955-1	0285-38-1095
高橋正夫	320	栃木県宇都宮市宝木2-904-3	0286-52-4337
畠中哲夫	145	東京都大田区田園調布2-17	03-721-0043
諸貫寛	330	埼玉県大宮市大和町1-847	0486-84-9023
柳川史子	730	広島市東区牛田本町2-5-7	0822-21-0682
桐原恵子	484	愛知県大山市天神町1-17(1-304)	0568-62-8547
鳥羽貞子	197	東京都秋川市雨間1874-29	0425-59-5938
神田寿美子	671-22	姫路市青山1238-10(横山方)	0792-66-3517
遊佐淑子	023-11	岩手県江刺市男石1-3-25	01973-5-1651
備前芳子	551	大阪市大正区小林町西一丁目1-10	06-551-6043
紫野京子	657	神戸市灘区曾和町1-4-20号サニーハウス六甲107号(武貞方)	078-811-7300
小野夏江	107	東京都港区南青山4-10-8(野町方)	03-403-5042
滝本寛子	168	東京都杉並区和泉町2-13-5和泉台マンション305	03-321-1914
山本みち子	190-12	東京都武蔵村山市三ツ藤1-46-9	0425-60-2836
早野千鶴子	503	岐阜県大垣市檜町688	0584-92-1067

詩集 棉の木の花

星野武彦

花神社(近刊)

東京都千代田区猿樂町2-2-5興新ビル605

受贈誌

「新詩人」「文芸広場」「茨城詩人」「朔」「季」「草原」「告天子」「萬緑」「辛夷」「異神」「山の樹」「海燕」「青宋」「響」「あゆみ」

投稿規定

■読者の投稿を求めます

投稿は「東京四季」の定期購読(一期分四冊)の誌代(含送料)二、八〇〇円を振り込み、定期読者として登録されている方に限ります。

四百字詰原稿用紙に二篇以内とし、誌上掲載作品は編集スタッフが選定します。

原稿には住所・氏名・郵便番号(連絡用電話番号を記入下さればなお結構です)を明記し、左記あて郵送して下さい。原稿は返却致しません。

■編集スタッフ

小杉・勝見・鈴木・鳥羽・山田

■原稿の送り先

〒421-05 静岡県相良町波津七六一一

小杉 茂樹

■購読料払込み先

〒252 藤沢市高倉五五五の二

鈴木 猛方

東京四季の会

振替 横浜 一一一九七三

編集後記

●「四季」は七年前終刊となったが、このたび詩と詩論の総合誌、「文學館」が潮流社より創刊されます。

●また「四季」「コギト」の詩人田中克己氏が先ごろ、自選自筆による「田中克己詩集」を上梓された。うれしいニュースだ。本誌前号にも作品を頂いている。ご健祥をお祈りする。

●「風に乗った少年」の出版記念会が五月二十三日大宮市内で盛大に催されたことを慶びたい。著者神田寿美子の一層の健筆と研鑽を祈る。

●新しく早野千鶴子氏を同人に迎えた。詩集に「雲の渚」がある。誌上での活躍を期待する。

●星野武彦遺稿詩集「棉の木の花」が今秋上梓されることになった。夙に遺族および鳥羽、山田らの間で進められていたものである。十月の一周忌の墓前に飾ることが出来るだろう。

●現代詩の先達の訃が相ついでいる。

滝口武士 五月十五日死去 七十七才

西脇順三郎 六月五日死去 八十八才

合掌し、ご冥福をお祈りする。

●二十三号の「空き地」で佐々木甚一が提起した問題について反響がきかれないのは、さびしい。実作上の基本的態度と詩の技法に関する問いかけである。今後もっとつっこんだ詩論の展開がほしい。

●共同墓地に埋葬されたモーツァルトの二百年祭がくる。(S)

東	京
四	季

29

東京四季の会編集

一九八三年十二月第二十九号（東京四季）

「東京四季」第二十九号 東京四季の会発行定価500円
発行日 一九八三年十二月
印刷・清水工房

堀さん

田中克己

四季派の首領堀辰雄さんが同人制を施いてえらばれたのは、朔太郎・鱒二・竹中郁・竹村俊郎・道造・津村信夫・辻野久憲・中也・犀星・桑原武夫・丸山薫・達治・神西清・神保光太郎にわたしを加へて一五人だった。

この内いま生き残ってゐるのは鱒二・武夫・神保と私とだけである。第四号（初秋号）で矢野峰人が書き、真壁仁・植村敏夫・杉山平一・平岡潤・能美久末夫の諸氏の作品が達治選で選ばれた。

堀さんの人徳は知るべきである。

わたしも、「大阪に置いては悪くなる」と、ねんごろなお手紙を頂戴した。わたしは、ゆめかとばかり喜んで参加した。

シュールレアリズム（超現実派）、ダダイズム、マルキシズムの詩人たちの

活躍した時代であったが、マルキストと目されたものは検挙され、中野重治も入獄した。四季（派）の全盛時代が間もなく来る。

昭和一二年の夏、達治（紹の着物を着た）とわたしは、信州追分の油屋に一泊し「四季の会」に出席した。加藤多恵さん、恩地三保さんの二人が同宿していて可憐なお嬢さんであった。多恵さんとの結婚は昭和一三年四月一七日、わたしは軽い嫉妬を感じた。

——わたしは堀さんを敬し愛してゐたのである。昭和一七年三月、大東亜戦争に「四季」同人から、神保とわたしとが厚生省徴用を受けた。堀さんは、「あとは引受けた」と仰せになり、朔太郎追悼号をお書きになり、わたしの留守宅に奥さんと慰問して下さった——他には誰一人慰問はなかった——。

堀さんが両肺をなくして亡くなられた時、わたしの教へ子たちは、「先生、お悲しみ」と白いカーネーションをくれた。わたしは、「浅間山 みねの煙のいつまでも あますときみを思ひしものを」との弔電を打った。

同人

○ 小杉茂樹	421-05	静岡県相良町波津762-2	05485-2-0100
松崎仙吉	300	茨城県土浦市天川町 2-12-13	0298-22-6022
勝見方雄	153	東京都目黒区青葉台 1-2-9	03-461-7979
阿部英雄	184	東京都小金井市桜町 2-1-42-702	0423-84-0668
金谷量三	131	東京都墨田区堤通り 1-17-25	03-611-4195
鈴木猛	252	神奈川県藤沢市高倉555-2	0466-44-8037
佐々木甚一	036	青森県弘前市西茂森 2-13-4	0172-36-2358
萩原康吉	347-01	埼玉県騎西町中ノ目499-1	04807-3-4437
山田雅彦	192	東京都八王子市暁町 2-31-20	0426-25-5006
松丸俊明	329-03	栃木県小山市鏡955-1	0285-38-1095
畠中哲夫	145	東京都大田区田園調布 2-17	03-721-0043
諸貫寛	330	埼玉県大宮市大和田町 1-847	0486-84-9023
柳川史子	730	広島市東区牛田本町 2-5-7	0822-21-0682
桐原恵子	484	愛知県犬山市天神町 1-17 (1-304) 佐々木方	0568-62-8547
○ 鳥羽貞子	197	東京都秋川市雨間1874-29	0425-59-5938
神田寿美子	671-22	姫路市青山1238-10 (横山方)	0792-66-3517
遊佐淑子	023-11	岩手県江刺市男石 1-3-25	01973-5-1651
備前芳子	551	大阪市大正区小林町西一丁目 1-10	06-551-6043
紫野京子	657	神戸市灘区曾和町 1-4-20号 サニーハウス六甲107号(武貞方)	078-811-7300
小野夏江	107	東京都港区南青山 4-10-8 (野町方)	03-403-5042
滝本寛子	168	東京都杉並区和泉町2-13-5和泉台マンション305	03-321-1914
○ 山本みち子	190-12	東京都武蔵村山市三ツ藤 1-46-9	0425-60-2836
早野千鶴子	503	岐阜県大垣市松町688	0584-92-1067
石井恭子	185	東京都国分寺市内藤 2-10-18	0425-72-3547
坂本俊雄	230	横浜市鶴見区下末吉 1-26-11	

受贈誌

日本現代女流詩人叢書

静川あや詩集

芸風書院

東京都文京区本郷 1-15-4
文京尚学ビル (〒113) ￥1300

- 「季」「朔」「山の樹」「青宋」
- 「琥珀」「新詩人」「遠州灘」
- 「黄薔薇」「風」「詩季」「陽」
- 「現代詩研究」「湖」「ふーず」
- 「地平線」「詩学」

投稿規定

■読者の投稿を求めます

投稿は「東京四季」の定期購読(一期分四冊)の誌代(含送料)二、八〇〇円を振り込み、定期読者として登録されている方に限ります。

四百字詰原稿用紙に二篇以内とし、誌上掲載作品は編集スタッフが選定します。

原稿には住所・氏名・郵便番号(連絡用電話番号を記入下さればなお結構です)を明記し、左記あて郵送して下さい。原稿は返却致しません。

■編集スタッフ

小杉・勝見・鈴木・鳥羽・山田

■原稿の送り先

〒421-05 静岡県相良町波津七六二二

小杉 茂樹

■購読料払込み先

〒252 藤沢市高倉五五五の二

鈴木 猛・方

東京四季の会

振替 横浜

一一一九七三

編集後記

●「この道を泣きつつわれのゆきしこと

わが忘れなば誰か知るらむ

田中克己

さらさらと色紙にペンを走らせて下さいました。ことしの節分(二月三日)に、山本みち子同人と二人で田中克己先生のお宅を訪ねました。どのお部屋も書棚が立ち並んで、(すごい。田中克己図書室だわ)と、感心してしまいました。奥様のお話では、教え子達が論文を仕上げる時この克己文庫に何日か泊まられた由、学者冥利につきる光景を思い浮かべました。「堀辰雄のことを、ちょっと書いてみましょうか」とおっしゃったお言葉を忘れずに、今号には玉稿を寄せて下さいました。有難うございました。

●先二十八号の佐々木甚一同人の随筆「詩の周辺」は大変好評で、各方面から共感のお便りをいただきました。今回は、才媛のほまれ高い柳川同人を口説いて、円熟滋味の佳品を頂戴致しました。いつもお手紙の最後にしたためた俳句のすばらしいこと、まさに文は人なりです。

●十月二十四日は故星野武彦同人の三回忌でした。アルバムを開くと星野さんの笑顔とウィットが飛び出してきます。

●草野心平氏が、この秋、文化功労者に選ばれました。

●「鳩よ」という詩の雑誌が創刊されました。商業誌なので同人誌と異ったイメージですが、詩のブーム反映とも言えます。(鳥羽)